

横芝の碑

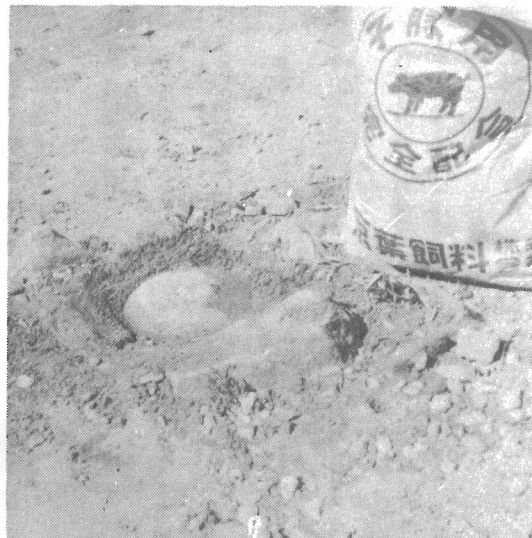
(その五十五)

―地図作製の要石―水準点標石―

今年の二月一日発行の本紙このシリーズで、埋もれていた横芝町の道路原標が久しぶりで陽の目を見たということをお紹介申し上げましたが、その取材を機会にして、地図作製には欠くことのできない重要な水準点標石がこの横芝町にあることを教えられました。しかも、それが道路原標の位置から余り離れていない向側の道路沿の或民家の門前なのです。

御存知の通り、正式な平面地図には、必ず等高線若しくは等高線等と呼んで土地の起伏を現すため、水準水面（我が国では東京湾の中等水面）から等しい高さの線を結んだ曲線が記入されています。東京湾の水面は常に変化しておりますので、中等水面を何時でも把握できるようにと、地理調査所では、その構内に水準の原点を設け、その標石の高さを、東京湾中等水面から二四、四一米と定め、これを基準として、全国一万余ヶ所以上の一線上の等間隔の地点に、水準原点に準ずる標石を建て、東京湾中等水面からの高さを示してあります。これが水準点標石で、三角点標石と共に地図を作製する

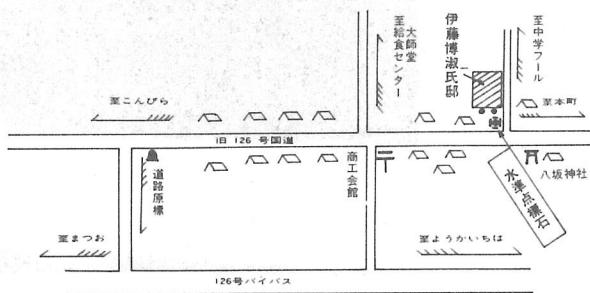
場合の拠点となるもので、いわば要石ともいえるものなのです。水準点標石は、殆んどが道路沿いに設けられていて、標石の根本は地中深く堅固な基礎で固められ、更に毀損を防ぐために四方を自然石等で囲んであり、特に往來が烈しくて破損の恐れがある場合は、地中に埋めて破壊を防ぐ等、これは総て国の管理で厳重に保護されています。そして、その地点の重要度に応じて一等・二等・三等と格付けされ、標石に一等水準



頭頂部が饅頭形をした水準点

点、二等水準点等と刻まれている外、その頭頂部が一等だけ異なっています。横芝町に建っている実は埋まっていますので、建っている、というよりは、在る、と言った方がよいかも知れません。のは二等か三等水準標石だと思います。というのは、この標石は僅か頭部が見えるだけで、横に刻まれている文字が判りません。しかし、こ

れを勝手に掘って見たりすることは絶対に許されませんので、頭頂部の形が二等か三等であることしか判断できないのです。尚確かな記録によりますと、この水準点標石は六、一九米だということです。○写真はその水準点標石で、中央が下部は四角で、頭頂部は饅頭形に丸くなり、中央部に更に小さな



◎ 役場

丸い突起状になっています（これが二・三等水準点標石の形で、一等水準点標石は、この突起が二段になっています。標石の四方には自然石が僅かに頭を見せています。後に見える飼料袋は埃芥の袋です。丁度この場所は上町地域の伊藤博淑氏の門前に当る角で、家庭廃棄物の集取所に使われていて、水準点標石がその廃棄物の下になっていましたので、取材の目標が見付からず、まごまごしていましたところ、伊藤博淑氏が、その廃棄物を退けて標石を示して下さいました。また、この取

材には、横芝小校長江嶋恒夫先生並に収入役本間重寿氏の御指導御協力を頂く等大勢の方々からの御支援があったことを申添えさせて頂きます。（皆さん方に御指導頂いた他、広辞苑及岩波書房発行地図の知識を併せて参考にしました。）

◎お詫びとお断り

このシリーズその五十三「三島薬寺の深豊深」の文の中で、「境内に建っている平家は集会所を兼ねた社務所」と御紹介申し上げましたが、これは誤りで、「この建物は薬王寺の本堂である」旨、元御住職声川静融師から御注意の連絡を頂きました。従って大師堂に薬師如来を合祀してある、ということも誤りであることをお詫びを兼ねてお断りをいたし、併せて静融師の御連絡にお礼を申し上げます。

